

平成 19 年 3 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバル
 代表者名 代表取締役会長兼社長 大久保 秀夫
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 2 7 5)
 問合せ先 取締役管理本部長 加藤 康二
 電 話 0 3 - 3 4 9 8 - 1 5 4 1

平成 19 年 3 月期 (連結 ・ 個別) 業績予想修正及び 特別利益、特別損失の発生のお知らせ

平成 18 年 11 月 22 日に公表しました平成 19 年 3 月期(平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせします。

記

1 . 平成 19 年 3 月期業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

【個別業績予想の修正】

(単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1 4 , 0 0 0	8 0 0	9 0 0
今 回 発 表 予 想 (B)	1 3 , 2 0 0	1 , 0 0 0	1 , 0 0 0
増 減 額 (B - A)	8 0 0	2 0 0	1 0 0
増 減 率 (%)	5 . 7	2 5 . 0	1 1 . 1
(参考) 前 期 (平成 18 年 3 月) 実績	1 5 , 8 5 3	3 4	7 3 8

尚、配当につきましては 1 株あたり 20 円を予定しております

【連結業績予想の修正】

(単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2 6 , 5 0 0	1 , 4 0 0	1 , 7 0 0
今 回 発 表 予 想 (B)	2 5 , 5 0 0	2 , 0 0 0	1 , 4 0 0
増 減 額 (B - A)	1 , 0 0 0	6 0 0	3 0 0
増 減 率 (%)	3 . 8	4 2 . 9	1 7 . 6
(参考) 前 期 (平成 18 年 3 月) 実績	2 7 , 5 0 0	1 4	1 , 0 6 3

2 . 修正の理由

(ア) 個別業績予想の修正の理由

主として電話機を中心とした機器関連売上が予想を約 7 億下回る見通しであり、売上及び経常利益の予想を修正いたします。当期純利益は経常利益の修正に対し投資有価証券売却益、子会社事業整理損の発生があり修正するものです。(3 . 及び 4 . を参照願います)

(イ) 連結業績予想の修正の理由

電話機を中心とした機器の売上が予想を下回る見通しであること、通信サービス関連において販売促進のための代理店手数料等が増加したこと、セキュリティ関連のSI事業者向け売上の商品構成及び価格競争の激化による利益率低下等により売上及び経常利益の予想を修正いたします。当期純利益は経常利益の修正に対し投資有価証券売却益の発生があり修正するものです。

3. 特別利益の発生について

(ア) 個別

特別利益発生の内容とその理由

当社が保有しております投資有価証券の一部を資産の効率化のために売却いたします。売却資金は財務体質の改善と今後の事業投資に充てる予定です。

投資有価証券の内容

株式会社ディー・エヌ・エー（東証マザーズ：2432）

売却予定株数 1,500株 投資有価証券売却益予定 555百万円

(イ) 連結

特別利益発生の内容とその理由

前述の（ア）個別の内容と同一です。

4. 特別損失の発生について

(ア) 個別

特別損失発生の内容とその理由

当社子会社セブンライズ及びフォーバライブが行ってございました事業から撤退するにあたり当社からの出資金及び貸付金相当額 615百万円を事業整理損として計上する予定です。

対象となる会社と出資金及び貸付金相当額

1. 株式会社セブンライズ：情報通信機器販売、通信サービスの取次を行ってございました。

出資金 260百万円 貸付金相当額 185百万円

2. 株式会社フォーバライブ：経営サポート事業の展開を企画してございました。

出資金 100百万円 貸付金相当額 70百万円

(イ) 連結

連結決算における事業整理損の発生額は軽微となります。

5. 当社子会社の業績修正について

当社子会社のフォーバルクリエイティブ（大証ヘラクレス：2724）は本日別紙の「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしました。本件に関する当社連結決算への影響は上記修正に含まれております。

以 上

各位

会社名 株式会社フォーバルクリエイティブ
 代表者名 代表取締役社長 金 住治
 (コード: 2724 大証ヘラクレスG)
 問合せ先 取締役 浦野 義朗
 (TEL: 03-5797-0040)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期決算において特別損失が発生する見通しとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 19 年 2 月 13 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

特別損失を約 126 百万円 (全額単体) 計上する見通しとなりました。これは主に当社が所有する米ドル建て投資有価証券の評価の悪化に伴う評価損として約 55 百万円、来期以降の事業展開に要する資金確保のための米ドル建て MMF 解約予定に伴う損失約 35 百万円等によるものであります。

なお、投資有価証券及び MMF は米ドル建てであり、期末までの為替の変動があるため現時点では円価の確定ではありません。

2. 19 年 3 月期連結業績数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,537	31	31
今回修正予想 (B)	2,300	80	210
増減額 (B-A)	237	111	241
増減率	9.3%	-	-
前期 (18 年 3 月期実績)	1,890	153	161

3. 19 年 3 月期個別業績数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,200	21	21
今回修正予想 (B)	2,000	90	220
増減額 (B-A)	200	111	241
増減率	9.1%	-	-
前期 (18 年 3 月期実績)	1,784	139	146

4. 修正理由

売上高につきましては、中小企業向け統合型セキュリティアプライアンス商品の販売及び子会社の株式会社クリエイティブソリューションズの業績は堅調に推移しましたが、主力のファイアウォール商品(ライセンス)、コンテンツセキュリティ分野の商品が競争激化により苦戦を強いられ減収となる見通しとなりました。

利益面につきましては、売上高の減少に伴う粗利益の減少と新規ビジネス立ち上げに伴う販売費及び一般管理費の増加により経常利益が、さらに上記特別損失の計上により当期純利益が予想を下回る見通しとなり、連結、個別ともに経常損失、当期純損失を計上する見通しとなりました。

以上